

お話を伺いました・・・・・・・・

今回、阪神淡路大震災からの教訓を伺いに、
神戸市長田区在住の古市忠夫さん(77歳)に
お話を伺いました。

古市さんは55歳のときに阪神淡路大震災で被災し、自宅兼店舗を焼失し、全財産を失います。震災直後は消防団の副団長として救助活動に奔走するなかで、たまたま愛車は火事の被害を免れトランクに置いていたゴルフバッグを見た瞬間から、『これをつかって飯食うていけ』と天の啓示にも似たひらめきを感じたそうで、友人の勧めもありゴルフのプロテストを受験し、震災から5年後にプロテストに合格。60歳でデビューした還暦ゴルファーとして話題になり、震災からの経験がスポーツライターによって『還暦ルーキー』というタイトルで書籍化され、さらにその書籍をもとに映画『ありがとう』としてドキュメント映画化もされました。

ゴルフバッグを見てから、プロゴルファーになると決めるまでの心境はどのような流れだったのでしょうか？

震災の1か月前までは、自宅向かいの駐車場に25年間契約していたのですが、マンションを建設する関係で自宅から離れた場所に変更していたため愛車は焼失せずに済みました。また、過去に車上荒らしに4回も遭っていたので、普段であれば車内にゴルフ道具を放置しないのですが、この時はたまたま震災前日が連休で1月15日16日とゴルフに行つたま



阪神・淡路大震災 1995年(平成7年)1月17日



まトランク放置してしまいました。この「たまたま」が2度も続くと、理屈では説明できない不思議な感覚になり、震災から2週間後に車のディーラーさんに車のカギを開けてもらい、ゴルフ道具を見た時に、ビビッと感じたことは間違いないです。ただ、この時点ではプロゴルファーになると思っていたわけでは無いのですが、この時から自分の中で違う脳細胞が動いたことは確かです。脳細胞は150億個あると言われていて、金メダルを取るようなスポーツ選手や、ノーベル賞をとるような学者さんはその3分の1くらいを使っていて、一般人はもっと少ないようです。私は、プロテストのときに5メートル、10メートルといったロングパットが5本、10本と連続で入るようなことが起こったんです。こんな奇跡のようなことは普通起こらないですよね？

自分の結果にしがみついて、「よし！プロゴルファーになるぞ！」といった自分のことだけを考えているような人には出来ないことです。でも、「みなさんのおかげで生かしてもらっている。ありがとう」という気持ちが身体の中からグーッと出てくると、普段とは違う脳細胞が使われて動き出したということしか言えません。

次回は、年齢を感じさせない古市さんのエネルギーに活動する秘訣などを伺います。お楽しみに。



唯一残った古市さん愛用のゴルフバッグ

全国避難者
情報システム

ふるさとネット の登録について

この情報紙からからは「ふるさとネット」の登録情報より発送しております。

「ふるさとネット」に登録していると北海道からのお知らせや、教育・福祉・医療に関する相談のご案内といった情報が提供されます。

転居、登録解除、定住の場合はご連絡ください。

- 引っ越しなどで住所を変更された方 → 住所変更
- 避難元に帰還される方 → 登録解除
- 道外へ転居される方 → 登録解除
- 道内に定住される方 → 登録解除

【連絡先】

- 避難先の市町村の窓口またはお電話で。
- 北海道総合政策部 地域振興局
地域政策課地域政策グループ TEL.011-204-5800
メール/shienhonbu@pref.hokkaido.lg.jp
- 北海道広域避難アシスト協会 TEL.011-375-0521

※住民票の異動、郵便局への転居届等の手続きとは異なり別途手続きが必要になります。

お問い合わせ先

北海道総合政策部 地域振興局 地域政策課地域政策グループ
(北海道道外被災県・避難者支援対策本部事務局)
〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目 道庁本庁舎4F
電話 011-204-5800 FAX 011-232-1126
※道では全国避難者情報システムの呼称を「ふるさとネット」としています

※お預かりした個人情報は、避難者の支援のために利用するほか、避難先都府県への提供など、限定した目的のみ利用し、その他の目的には一切使用いたしません。